

平成24年度事業実績

1. 事業1「手話による教養大学」

2010年度、2011年度に引き続き、日本社会事業大学文京キャンパス・清瀬キャンパスにて、ろう者講師が手話で教える、20科目から成る教養科目群を構成し「手話による教養大学」として開催した。本学の聴覚障害学生のみならず、単位互換制度を利用した他大学の聴覚障害学生、聴講生制度を利用した一般の方の受講も多くあり、聴覚障害者に手話で直接大学の授業を受ける機会を提供することができた。

文京キャンパスでは16科目（3科目は不成立）開講し、のべ66名（うち本学学生9名）の受講があった。一方、清瀬キャンパスでは、4科目開講し（「社会XV（情報保障）」、「科学XIII（メディアと世界）」、「科学XIV（建築・科学・自然）」、「初級アメリカ手話A）」、一般教養科目として健聴学生も受講できるよう手話通訳を配置した。4科目合計でのべ153名の受講があった。「手話による教養大学」全体では、のべ219名受講があり、前年度比で46名の増加であった。HPやtwitterなどで積極的に周知した結果、知名度が徐々に広がりつつあると思われる。

また、「情報保障」の授業を受けた学生の中から7名程度が、ノートテイク・パソコンテイクとして活動するようになり、受講生の増加とともに、各事業をリンクさせる試みが実を結び始めていると思われる。

2012年度「手話による教養大学」受講者数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計
	英語B1（富田）	英語B10（佐野）	初級アメリカ手話A（森亜）	初級アメリカ手話B（谷口）	中級アメリカ手話（谷口）	上級アメリカ手話（谷口）	人間XIV（佐野）	人間XV（雫境）	人間XVI（雫境）	人間XVII（中野）	人間XVIII（森壮）	科学XI（末森）	科学XII（末森）	科学XIII（木下）	科学XIV（木下）	社会XII（田門）	社会XIII（田門）	社会XIV（森壮）	社会XV（吉川/岡田）	社会福祉特講II（高山）	
	文	文	清	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	清	清	文	文	文	清	文	
聴講生及び特別聴講生	2	4	1	8	6	9	3	2	0	1	8	0	0	0	0	1	2	1	0	10	58
本学在学生	1	1	9		1									41	45				57	6	161
合計	3	5	10	8	7	9	3	2	0	1	8	0	0	41	45	1	2	1	57	16	219

2. 事業2「授業等における情報保障者の配置」（学内学生支援）

本学に在籍する聴覚障害学生に対してノートテイク、PCテイク、手話通訳等の情報保障を行った。学生の支援者に加え、外部の手話通訳者、パソコンテイクも積極的に活用し、聴覚障害学生の状況に合った支援を提供した。また、後期からは宮城教育大学と遠隔地情報保障支援を実施した。各大学から1名ずつの支援者を出し、VPNを介して遠隔地でパートナーを組ん

で連携によるパソコンテイクを行うという、日本初の試みであった。これにより、支援者が足りないコマを相互にカバーすることができた。またある時間帯で支援が必要なコマがなく、支援学生が余ってしまうという課題に関しても、遠隔を利用して活動の場を増やしたことで、支援学生が活動でき、結果的にテイカーの増加と、全体としてのスキルアップにつながった。

通信教育科には、社会福祉士養成課程に2名、精神保健福祉士養成課程に1名の在籍があった。昨年度と同様に、通信教育科でまず予算措置を行い、それを超えた分についてはプロジェクトの予算で支援するという予算抛出の実績を積み上げていくことに努め、大学の責任で支援を提供していく体制を整えるべく努力した。

また、入学式、オリエンテーション、就職説明会、ゼミ選択説明会など、支援に関わる費用がプロジェクト以外から抛出されるイベント・行事においても、必要に応じてプロジェクトが支援者を手配し、またそれに伴う業務をその時々状況に合わせて各部署と分担するなどし、聴覚障害学生支援についてのリソースセンター、部署間連携のハブとして機能するよう努めた。その結果、支援を行うにあたってのノウハウが徐々に大学本体に蓄積されていき、担当部署単独で情報保障者の手配を行う、例年より早めに動き始めプロジェクト室に具体的な進め方について相談を持ちかけてくるなどの好ましい状況につながりつつある。

今後の課題としては、聴覚障害学生の急増に対応していくことである。2013年度は全学で13名の聴覚障害学生が在籍している。急増した人数に対応し、またそれでも質の高い支援を提供していくためには、前述したリソースセンター機能・ハブ機能の強化、および支援者の新規開拓とその入念なケアまでも含めた人数と質の維持が必要である。すなわち、支援が必要なコマや行事の急増に対応するために、これまでに比して、各部署で担っていく業務の明確化とそのノウハウの蓄積が必要である。これまではプロジェクトがかなりの程度バックアップしてきた側面があるが、より明確かつ各部署の強みを活かした連携体制を構築することで、無駄なく素早く、場合によってはプロジェクトを介すことなく支援にあたっていけるような体制を構築していく必要がある。またその一方で、支援者を増やすために、学生に対する広報に力を入れ、地域の人材の活用など新たな方策を探っていくことが求められる。そして、その際には、関係する支援者の人数がこれまで以上に増加し、またその背景が異なるため、支援者集団全体としてスキルをモニタリングすることや、モチベーションの把握、意見や考えの相違の調整など、より高度かつ入念で丁寧なコーディネート、マネジメントを心がけていく必要がある。

2012年度 情報保障者配置実績（延べ時間）

事業名		学生支援者		外部支援者			計
		PCテイク	NT	手話通訳	PCテイク	遠隔通訳	
教養大学	清瀬科目			112.50			112.50
学内支援	学部・大学院	601.50	637.50	402.25	367.50	60.00	2068.75
	通信教育科	52.00		83.00	12.00		147.00
	オープンキャンパス等	6.00		4.00			10.00
	その他（会議等）			11.50			11.50
支援者養成				23.00	18.00		41.00
計		659.50	637.50	636.25	397.50	60.00	2390.75

※ただし、本学の支援実績データベース上の数字であるので、多少の誤差あり。（経理処理のプロセスの違いにより、このデータベースに記載しないものもある。）

3. 事業3「パソコン通訳養成講座」

ノートテイカー、パソコンテイカーの養成を目的に、初心者対象の研修会を8月3日、9月12日、3月13日、3月14日の計4日実施した。また、10月27日には、経験者対象のフォローアップ研修会として、筑波技術大学の白澤麻弓准教授を招き、通訳スキルを理論的に理解す

る研修会を実施した。各回の参加者は10-20名程度であった。また、学生の空き時間に合わせた個別的な研修会もできるだけ多く実施し、支援者を増やすことに努めた。

また、学外の様々なイベントを積極的に紹介し、学生の参加を促した。技術的なスキルアップだけではなく、支援に関連する様々な知識や経験を得てもらいたいとの考えからであった。一例として、12月1日、2日に実施された「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)全国シンポジウム」には、聴覚障害学生・支援者10名程度が参加した。他大学の学生と交流する中で、支援に関する様々な考え、視点を学び、自分たちの活動や支援利用者としての在り方を考える良い機会となったようだ。ランチセッション「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト2012」でも発表をし、4位に相当する「グッドアイデア賞」を受賞した。

今後の課題としては、事業2でも述べたが、支援者の増加とその質の向上が挙げられる。前述した地域資源の活用など、その供給源の新規開拓もさることながら、養成方法の検討も必要かもしれない。オンラインでの養成プログラムを開発するなど、少ないスタッフの数でより多くの人材を効率的に養成する方策を検討していくことが求められる。

4. 事業4「ろう・難聴高校生の学習塾」開講

聴覚障害を持つ高校生を対象に、ろう者の講師が手話で教えるクラス、聴者の講師が情報保障付きで教えるクラスの両方を用意した塾を開講した。2012年度は中学生も3年生以上は受け入れ、年間を通して27名が参加した。習熟レベルやコミュニケーション方法に配慮したクラス編制を行い、多様な聴覚障害高校生のニーズに対応するよう努めた。

- 2学期：10月19日(金)～11月16日(金) 毎週金曜。4週。

	ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス		
	18:00-19:30	英語基礎	英語受験	数学基礎	英語受験	数学標準
19:40-21:10	国語標準	数学受験		国語受験	英語基礎	

- 3学期：2月22日(金)～3月8日(金) 毎週金曜。3週。

	ろう者講師 手話クラス		聴者講師 情報保障付きクラス		
	18:00-19:30	数学基礎	英語受験	数学標準	国語標準
19:40-21:10	国語基礎	数学受験	数学標準	国語受験	英語基礎

- 春期講習：3月28日(木)・30日(土)・31日(日) 3日間。

		ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス		
		28日(木)	13:00-15:00	数学基礎	英語受験		数学標準
	15:00-17:00	英語基礎	数学受験			英語標準	国語受験
30日(土)	13:00-15:00	数学基礎	英語受験	英語受験		国語標準	
	15:00-17:00	英語基礎	数学受験		数学基礎	英語標準	国語受験
31日(日)	13:00-15:00	数学基礎	英語受験	英語受験	数学標準	国語標準	
	15:00-17:00	英語基礎	数学受験		数学基礎	英語標準	国語受験

昨年度までは60分授業で行っていたが、今年度は受講生・講師双方の要望に基づいて1コマを60分から90分に変更した。その結果、1日に受講できる科目は2科目となったが、より丁寧な指導が可能になった。また、2012年度は、高校生だけでなく、浪人生や専攻科の生徒なども参加し、大学進学を目指す受験生は合計10名にのぼった。受験生10名のうち、9名が大学に合格し進学した（1名は進路不明）。合格者のうち6名は1年生の時から参加している受講生であり、今年度だけでなく事業開始時からの指導の成果が出てきたと言えるのではなかろうか。

2012年度「ろう・難聴高校生の学習塾」卒業生進学先一覧

進学先	人数	出身高校名
国際短期大学	1	中央ろう学校
十文字学園女子大学	1	堀越高校
東海大学	1	中央ろう学校
日本社会事業大学	2	葛飾ろう学校・聖パウロ学園
明治学院大学	1	恵泉女学園高校
ルーテル学院大学	2	葛飾ろう学校・練馬高校
和光大学	1	中央ろう学校

一方で、中学生からの問い合わせも増えてきており、受講ニーズの低年齢化が見受けられる。2012年度に参加した中学生は年間合計5名であり、さしあたっては基礎クラスで指導を行っていた。しかしながら、受講生の学習レベルや年齢の多様化により、今後はクラス分けが難しくなることが予想され、このことが大きな課題の1つとなろう。

また、コミュニケーション方法の多様化も課題となりうる。事業開始当初はろう学校の生徒が大半であったが、2012年度はろう学校の生徒が13名、一般中・高校の生徒が12名（残り2名は予備校生とろう学校専攻科）とほぼ同数となった。手話での受講が難しい生徒に対して、情報保障付きのクラスを、各科目・各レベルに用意できるかどうかは今後の課題である。

このような課題もあるが、一般学校の生徒の増加は課題ばかりではない。一般中・高校の生徒の中には、ろう者の講師やろう学校の生徒とのコミュニケーションのために手話を少しずつ覚える生徒も見受けられている。学習の場であるだけでなく、交流の場としても、「ろう・難聴高校生の学習塾」は機能しており、ひいては大学入学前に支援について学べる、準備ができるという結果にもつながっている。